

作成日 2020/07/22

改訂日

## 安全データシート

### 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	Nuvia Uncharged IMAC Resin
製品コード	12004039
整理番号	12004039
別名	12004039, 12004040, 12004051, 12004052, 12004035, 12004037, 12004038, 12009289
供給者の会社名称	バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社
住所	〒140-8641 東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セ ントラルタワー20F
担当部門	ライフサイエンス
電話番号	03-6361-7000
FAX番号	03-5463-8480
電子メールアドレス	life_ps_jp@bio-rad.com
推奨用途	試薬

### 2. 危険有害性の要約 化学品のGHS分類

物理化学的危険性	引火性液体 区分3
健康有害性	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 区分2B 発がん性 区分1A 生殖毒性 区分1A 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分1(肝臓) 特定標的臓器毒性(反復ばく露) 区分2(中枢神経 系) 上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しない か分類できない。

#### GHSラベル要素

##### 絵表示



##### 注意喚起語 危険有害性情報

危険  
H226 引火性液体及び蒸気  
H320 眼刺激  
H350 発がんのおそれ  
H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
H372 長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓の障  
害  
H373 長期にわたる、又は反復ばく露による中枢神経  
系の障害のおそれ

##### 注意書き 安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこ  
と。(P202)  
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠  
ざげること。禁煙。(P210)  
容器を密閉しておくこと。(P233)  
容器を接地しアースをとること。(P240)  
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器を使用す  
ること。(P241)  
火花を発生させない工具を使用すること。(P242)  
静電気放電に対する措置を講ずること。(P243)

応急措置	粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。(P260)
	取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
	取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)
保管	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
	保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。(P280)
	皮膚又は髪に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
廃棄	眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
	ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313)
	気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314)
廃棄	眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)
	火災の場合：消火するために適切な消火剤を使用すること。(P370+P378)
	換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)
廃棄	施錠して保管すること。(P405)
	内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

### 3. 組成及び成分情報

#### 化学物質・混合物の区別

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	混合物		CAS番号
			官報公示整理番号	化審法	
水	50-100%	-	-	-	7732-18-5
エタノール	10-20%	CH <sub>3</sub> CH <sub>2</sub> OH	(2)-202	既存	64-17-5

### 4. 応急措置

#### 吸入した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。  
ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

#### 皮膚に付着した場合

皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。

#### 眼に入った場合

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。  
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。

ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

#### 飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

		<p>飲み込んだ場合、気分が悪いときは、医師に連絡すること。</p> <p>ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。</p>
5. 火災時の措置		
適切な消火剤		<p>周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。</p> <p>粉じんが発生している時は乾燥砂を用いる。</p> <p>情報なし</p> <p>燃焼ガスには、一酸化炭素などの有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。</p> <p>消火作業は、風上から行う。</p> <p>周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。</p> <p>火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。</p> <p>関係者以外は安全な場所に退去させる。</p> <p>消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスクなど)を着用する。</p>
使ってはならない消火剤		
火災時の特有の危険有害性		
特有の消火方法		
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置		
6. 漏出時の措置		
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置		<p>作業には、必ず保護具(手袋・眼鏡・マスクなど)を着用する。</p> <p>多量の場合、人を安全な場所に退避させる。</p> <p>必要に応じた換気を確保する。</p> <p>漏出物を河川や下水に直接流してはいけない。</p> <p>少量の場合、吸着剤(土・砂・ウエスなど)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾などでよく拭き取る。大量の水で洗い流す。</p> <p>多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラムなどに回収する。</p> <p>付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。</p> <p>床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。</p> <p>漏出物の上をむやみに歩かない。</p>
環境に対する注意事項		
封じ込め及び浄化の方法及び機材		
二次災害の防止策		
7. 取扱い及び保管上の注意		
取扱い	技術的対策	<p>『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。</p> <p>容器を接地すること。アースをとること。</p> <p>火花を発生させない工具を使用すること。</p> <p>防爆型の電気機器、換気装置、照明機器等を使用すること。</p> <p>静電気放電に対する予防措置を講ずること。</p> <p>蒸気またはヒュームやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。</p> <p>取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。</p>
	安全取扱注意事項	<p>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。</p> <p>取扱い後はよく手を洗うこと。</p> <p>保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。</p> <p>涼しい所に置くこと。</p> <p>粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。</p>
保管	接触回避 安全な保管条件	<p>『10. 安定性及び反応性』を参照。</p> <p>『10. 安定性及び反応性』を参照。</p>

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。  
施錠して保管すること。

8. ばく露防止及び保護措置  
設備対策

蒸気、ヒューム、ミストまたは粉塵が発生する場合は、局所排気装置を設置する。  
取扱い場所の近くに、洗眼及び身体洗浄のための設備を設置する。  
必要に応じて、適切な呼吸器用保護具を着用すること。  
保護手袋を着用すること。  
保護眼鏡、保護面を着用すること。  
保護衣を着用すること。

保護具

呼吸用保護具

手の保護具

眼、顔面の保護具

皮膚及び身体の保護

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

形状

色

臭い

融点／凝固点

沸点又は初留点及び沸点

範囲

可燃性

爆発下限界及び爆発上限 下限  
界／可燃限界

上限

引火点

自然発火点

分解温度

pH

動粘性率

溶解度

n-オクタノール／水分配

係数

蒸気圧

密度及び／又は相対密度

相対ガス密度

粒子特性

その他

液体又は固体

淡青色

アルコール臭

データなし

78℃

データなし

3.5 Vol%

15.0 Vol%

23-60℃

425℃

データなし

7.00

データなし

部分的に可溶

データなし

59 hPa

データなし

データなし

データなし

10. 安定性及び反応性

反応性

化学的安定性

危険有害反応可能性

避けるべき条件

混触危険物質

危険有害な分解生成物

情報なし。

通常通りの使用方法では分解しない。

危険な反応は起きない。

情報なし。

知られている範囲では存在しない。

知られている範囲では存在しない。

11. 有害性情報

急性毒性

経口

急性毒性推定値が5000mg/kg超のため区分に該当しないとした。

毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

経皮

急性毒性推定値が5000mg/kg超のため区分に該当しないとした。

毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

吸入

(気体)

データ不足のため分類できない。

皮膚腐食性／皮膚刺激性

眼に対する重篤な損傷性  
／眼刺激性

呼吸器感作性

皮膚感作性

生殖細胞変異原性

発がん性

生殖毒性

特定標的臓器毒性(単回  
ばく露)

特定標的臓器毒性(反復  
ばく露)

誤えん有害性

## 12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期  
(急性)

水生環境有害性 長期  
(慢性)

生態毒性

残留性・分解性

生体蓄積性

土壤中の移動性

オゾン層への有害性

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

汚染容器及び包装

(蒸気)

急性毒性推定値が50000ppm超のため区分に該当しないとした。

毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

(粉じん・ミスト)

データ不足のため分類できない。

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。

毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

眼区分2Bの成分合計が10-20%のため、区分2Bとした。

データ不足のため分類できない。

データ不足のため分類できない。

データ不足のため分類できない。

区分1Aの成分が10-20%のため、区分1Aとした。

(生殖毒性)

区分1Aの成分が10-20%のため、区分1Aとした。

(生殖毒性・授乳影響)

データ不足のため分類できない。

危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。

毒性未知成分を考慮濃度(1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

区分1(肝臓)の成分が10-20%のため、区分1(肝臓)とした。

区分2(中枢神経系)の成分が10-20%のため、区分2(中枢神経系)とした。

動粘性率が不明のため、分類できないとした。

(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分合計が0%のため、区分に該当しないとした。

毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分合計が0%のため、区分に該当しないとした。

毒性未知成分を含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データ不足のため分類できない。

特殊廃棄物回収業者に引き渡して処理することを推奨する。

上記がやむを得ず不可能な場合、関係当局の規則に従って処分する。

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和などの処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

内容物／容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

特殊廃棄物回収業者に引き渡して処理することを推奨する。

上記がやむを得ず不可能な場合、関係当局の規則に従って処分する。  
 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。  
 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意  
 国際規制

海上規制情報  
 IMOの規定に従う。  
 UN No. 1170  
 Proper Shipping Class エタノール溶液  
 3  
 Packing Group III  
 Marine Pollutant Not applicable  
 Liquid Substance Not applicable  
 Transported in Bulk  
 According to  
 MARPOL 73/78,  
 Annex II, the IBC  
 Code

国内規制

航空規制情報  
 ICAO/IATAの規定に従う。  
 UN No. 1170  
 Proper Shipping Class エタノール溶液  
 3  
 Packing Group III  
 陸上規制 非該当  
 海上規制情報 船舶安全法の規定に従う。  
 国連番号 1170  
 品名 エタノール溶液  
 クラス 3  
 容器等級 III  
 海洋汚染物質 非該当  
 MARPOL 73/78 附 非該当  
 属書II 及びIBC コー  
 ドによるばら積み輸  
 送される液体物質  
 航空規制情報 航空法に従う。  
 国連番号 1170  
 品名 エタノール溶液  
 クラス 3  
 等級 III  
 緊急時応急措置指針番号 127

15. 適用法令  
 労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9)  
 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)  
 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9)

毒物及び劇物取締法  
 化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)  
 大気汚染防止法

エタノール(政令番号:61)(10%-20%)  
 非該当  
 非該当

海洋汚染防止法

揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達)  
 油性混合物(施行規則第2条の2)  
 有害でない物質(施行令別表第1の2)

外国為替及び外国貿易法

船舶安全法  
航空法

港則法

特定有害廃棄物輸出入規  
制法(バーゼル法)  
化学兵器禁止法

16. その他の情報  
連絡先

参考文献  
その他

有害液体物質(X類物質)・油性混合物(施行令別表  
第1第1号イ(81))  
有害液体物質(Z類物質)(施行令別表第1)  
輸入貿易管理令第4条第1項第2号輸入承認品目「2  
の2号承認」  
輸出貿易管理令別表第1の16の項  
輸出貿易管理令別表第2(輸出の承認)  
引火性液体類(危規則第3条危険物告示別表第1)  
引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第  
1)  
その他の危険物・引火性液体類(法第21条第2項、  
規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)  
特定有害廃棄物(法第2条第1項第1号イ、平成30  
年6月18日省令第12号)  
有機化学物質(法第29条1、施行令第4条1)

バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社 ライフサイエ  
ンス

03-6361-7000

「ezSDS」日本ケミカルデータベース株式会社  
この情報は、現在の自社の認識に基づいて作成して  
いますが、記載のデータや評価に関してはいかなる  
保証をするものではありません。また、製品の特性を  
保証するものではありません。本MSDSは情報提供を  
目的としていますので、化学物質の安全性の指標とし  
てのみご使用ください。